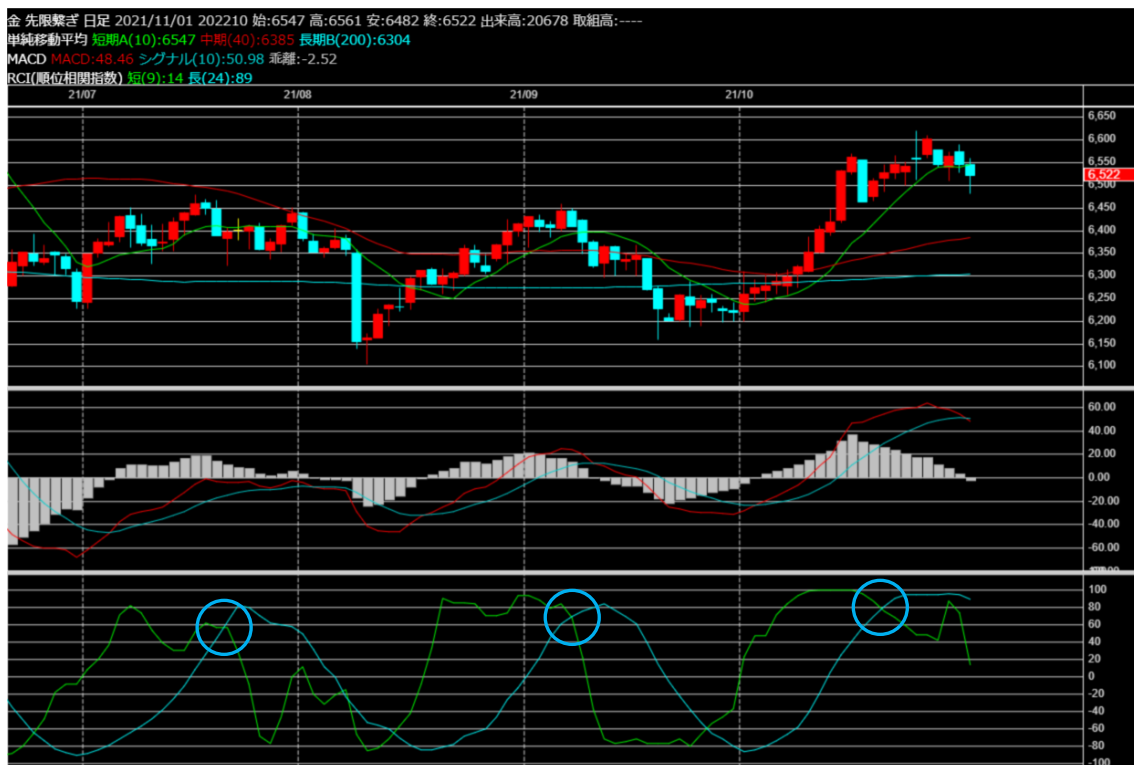


＜金標準先物、テーパリング要因を受け 6400 円へ・・・＞



(出所：オアシス)

今週 3 日には、FOMC が開催されテーパリングの開始の宣言が実施される可能性が高い。特にパウエル FRB 議長は「私はテーパリングを始める時が来たと考えているが、利上げの時期とは考えていない」と発言しており、今回の FOMC におけるテーパリングの開始の宣言を示唆している。また個人消費支出 (PCE) 物価指数が前月を上回る 4.4%となるなど、高いインフレ圧力を受けており、当局者と市場のインフレ高に対する思惑に乖離した動きが存在しており、金利は高止まりを見せている。またノルウェーやニュージーランドに続きカナダ中銀も緩和策の終了を発表するなど、FRB を睨んだ動きを見せており、世界的な出口戦略の始まりに思える。

そのため金利高やドル高の動きにドル建て金価格は、先週は 1800 ドルで戻りが抑えられる値動きを示しており、金標準先物でも 6600 円を上回る事が難しく、今週は 6400 円に向けた戻り売り基調が強まる週になると予想される。

(2021 年 10 月 31 日記載)

＜テクニカル＞

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD において **MACD** と **シグナル** がクロスを示しており、また **MACD** と **シグナル** の乖離を示すヒストグラムでもマイナスサイドへ移行する動きを見せている。RCI では **短期** が **長期** を上回る事無く再度下げており、基調が弱気基調を示唆しており、戻り売りから 6550 円以上は売り狙いが無難と思える

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 437,000 円(2021 年 11 月 1 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 33,000 円(2021 年 11 月 1 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>